

八王子市立中学校部活動検討会議 会議録

会 議 名	令和5年度第2回八王子市立中学校部活動検討会議		
日 時	令和5年8月25日（金） 午後6時30分～午後8時00分		
場 所	八王子市役所本庁 801 会議室		
出 席 者	<p>NPO 法人八王子市スポーツ協会 会長 澤本 則男 八王子文化連盟 理事長 土井 俊彦 八王子レクリエーション協会 会長 塩澤 迪夫 中学校PTA 連合会 会長 廣田 貴子 大学コンソーシアム八王子 主査 鎌田 正純 スポーツ推進委員協議会 会長 青木 純 中学校校長会（体育） 校長 山川 毅 中学校校長会（文化） 校長 藤塚 康子 小学校校長会 校長 平田 英一郎</p> <p>生涯学習スポーツ部長 平塚 裕之 スポーツ担当部長 志萱 龍一郎 学校教育部長 今川 邦洋 指導担当部長 西山 豪一 生涯学習政策課長 鶴田 徳昭 スポーツ振興課長 谷 靖之 放課後児童支援課長 倉田 直子 統括指導主事 鴨狩 淳一 地域教育推進課長 高橋 健司 学校施設課長 武井 博英 学務課長 中野 みどり 教職員課長 櫻田 俊二</p>		
欠 席 者	<p>指導担当部長 西山 豪一 学校施設課長 武井 博英 学務課長 中野 みどり</p>		
議 題	<p>（1）部活動・地域活動の将来像 （2）将来像の実現に向けた今年度の取り組み （3）意見交換</p>		
会議の公開・ 非公開の別	公開	傍聴者の数	0
配 布 資 料	<p>・令和5年度（2023年度）第2回八王子市立中学校部活動検討会議 次第 ・八王子市立中学校部活動検討会議 出席者名簿 ・第2回 八王子市立中学校部活動検討会議 資料</p>		

会議内容

1. 開会

平塚部長：それでは、定刻となりましたので、只今から、令和5年度、第2回八王子市立中学校部活動検討会議を開催いたします。

本会議は八王子市立中学校部活動検討会議開催要綱に基づき開催しておりますが、この運営にあたっては、「八王子市附属機関及び懇談会等の指針」に沿って行っており、会議は原則公開となっております。本日傍聴人の方はいらっしゃいません。また、会議の終了後は会議録を作成し、市のHPに掲載することとなっているため、記録用に音声録音をしておりますことをご承知おきください。その関係で、発言前にはお名前をお願いします。

会議に先立ちまして、中学校PTA連合会にて会長の改選があり、守屋香里様に代わり、廣田貴子会長が今回からご参加されます。廣田様、どうぞよろしくをお願いします。また、八王子市レクリエーション協会の塩澤迪夫会長も本日よりご参加いただきます。塩澤様どうぞよろしくをお願いします。

2. 会議

平塚部長：それでは、次第に沿いまして会議を進行します。(1)部活動・地域活動の将来像、(2)将来像の実現に向けた今年度の取り組みにつきまして、第1回会議の議論も踏まえて市側から資料の説明をいたします。

(1)、(2)

※配布資料「第2回 八王子市立中学校部活動検討会議 資料」参照

(3)意見交換

平塚部長：ただいま市側からの説明ございました。これから意見交換に入りたいのですが、その前に情報量が多いこともあるため、まずは資料の内容についてご質問等があれば賜りたいと思います。いかがでしょうか。

参加者：生徒・保護者・教員のニーズ把握とありますが、これは八王子市ではなく、東京都の全体の調査ですよね。私たちが話をしているのは東京都の話ではなくて、八王子市の話ですので、八王子市の親や生徒がどう考えているのかを把握しないといけないのでは。

鶴田課長：こちらは東京都が同様の質問項目で一斉に行ったものです。しかし、東京都の集計が終わりますと、八王子市分のデータを市に提供してくれる流れになっております。ですので、そこで八王子の保護者の費用負担に関する考え方とか、八王子の子どもの地域活動への参加意向とか、そういったものが明らかになってくるという建付けになっております。なお、都の教育委員会に直接確認したところ、10月頃には集計が終わり、各市町村にデータを渡せるのではないかという返答をもらっております。

参加者：それに関連して、14ページのところで「それぞれの協議会におかれ

ましては、加盟団体への調査協力」とありますが、調査協力するのは構わないが、この話は私たちがやりたいのではなくて、簡単に言えば学校教育の方が部活動を何とかしてくれという話ではないですか。教育委員会で3年ほど前にこのような会議があった時には、「部活動がひっ迫している」と。「働き方改革で教員が大変だから、何とか部活動を地域で面倒見てほしい」という会議だったつもりでいました。ところが、先日教育委員会の方と話をしたところ、そうではないようなことを聞いたので、混乱している。学校教育の方が困ったから、社会教育で面倒見てくれということが話の筋ですか。

鶴田課長：前回の経緯については承知しておらず申し訳ありません。今回提案するものにつきましては、単純に学校部活動をそのままの地域の方で面倒を見てくださいというイメージではありません。学校は学校でそういった課題は持っていることは間違いないですが、そのまま部活動の下請けをやってくださいという発想ではなく、少子化で人口減少の局面を迎えている中で、子どもの体験機会をいかに地域全体で確保していくか、そのために学校だけでなく、地域だけでもなく、全体の体験機会として子どもたちがそれを自由に選べる環境を作っていくということを今回は提案しています。少し分かりづらいかもしれませんが、そのままの地域活動に子どもたちがより参加しやすい環境を作っていきたいというのが本旨であって、部活動の下請けをやってくださいといった意味合いでは全くないという考えは共有できればと思います。

鴨狩統括：数年前、コロナ前に部活動のあり方検討会を開きました。その時にはまだ国としても市としても、部活動の地域移行の話は全くなく、そのときの部活動のあり方の中で、子どもが少ない中でどう部活をやっていくかですとか、先生たちの負担が多かったとかが検討されたかと思います。ただ、その後、国としては部活動の地域移行という政策を出してきたということで、一回そこでリセットされています。多分、これは国としては部活を地域移行していこうと出していますが、今本当に全国で悩んでいるのは一気にそれができないということです。主役はやはり子どもで、八王子は地域の子どものので、地域で子どもを育てていこうということで、今まである連盟や協議会については、何ら活動は変わらず、基本的には子どもたちがさらに自由に選択を広げて部活オンリーではなくて、色々な活動にも参加ができるようになっていくシステムを八王子市では作っていただけると考えています。結果的に部活に入る生徒が少なくなってしまって、もうこれ以上持続は難しく、部活の役割が終わったという時には、部活は少なくしていこうというイメージです。ですから、今まで学校にいた子どもたちがもっと外の地域クラブや団体に入っていくというイメージ。

参加者：どのように調査をするのかわかりませんが、例えば各団体での受け入れ体制を調査すると言われても、どのくらいの子がどういうことをしたい

のかわからないのに、受け入れ体制だけ調査するのは話が逆で、そちらを先にやっていただかないと私たちの方で対応できないと思います。こちらが来てくださいというのではなくて、そちらが分散してでも生徒の面倒見てほしいという話なのに。例えば、一生懸命やるクラブもあればそうでないクラブもある。帰宅部みたいのもあって広くなっちゃう。これを何とか開けてくれという話だったはずなのですが、いろいろ国の方の政策が変わったとしても、スポーツ協会から見ると、スポーツも本格的に活動している団体から趣味的に活動している団体まで、段階がいろいろある。協会全体としての話ですけど、どのぐらいの生徒が来るのかわからないのに調査してくれと頼まれても困る。比較的私が聞いている中では、ソフトに活動をしている団体が人気あるから、そういうところの人たちが受け入れられる枠がたくさんあると思う。本格的にやっている生徒はすでに団体に所属している。先日の理事会の中で関係しそうな人に伺いまして、子どもに人気のあるサッカー団体に聞いたら、サッカー協会は「いっぱい来ちゃうから、ある程度までセクションして能力の高い子だけを取って、それ以外は学校クラブに入れる方針です」と言っています。そして、野球は逆に生徒が少なく、なんとか人が欲しいということをやっていました。なので、一概に、一律調査をするのはすごく難しい話。また、費用の関係も出てくる。普通は三千円くらいですが、それを上回るような金額も出ています。それは習うだけではなく、ユニフォームなど、色々なお金がかかるわけです。その時に、学校であればあまりお金がかからなくても、地域に行った時にはお金がかかる。それを保護者はどう考えているかが 10 月に出るわけですね。それを聞かないとわからないので、やはりやり方が逆だと思っている。

谷課長: おっしゃられた通り、ニーズがあって、そこに対してどれだけ受け入れられる形があるのかと聞いたほうがスムーズなように思います。最終的に目指したい部分ということでいきますと、スポーツ協会に入られている団体、まさに頂点を目指していくような、入部するためにセクションもあるような団体から、もともとそこまで求めない、ある種ゆるく活動する団体、いろいろあると思います。そういった団体をまずは詳らかにしていき、そこから子どもたちがどこに行きたいのかを自由に選択できるようにしていきたいというのが将来像としてあります。具体的に「このクラブは厳しいから入ったらそれなりに覚悟してきてくださいね」というものがあっていいと思います。逆に「来る人は誰も拒みません」という団体があってもいいと思いますので、そういったことも含めて全てを情報として出して行って、子どもたちが選んでいけるようなものを目指していきたいということです。今 11,000 人が部活動をしている生徒がいる中で、レベル感とかではなく、純粹に地域の団体でどれくらい中学生を受け入れるキャパシティがあるのかを情報として知っておきたいので、調査というお話をさせていただきました。ただ、確かに、ニ-

ズがはっきりしていれば、それを示しながら話を進めていくのは一つの考え方ではあるので、具体的な調査についてはまた相談させていただきたい。

参加者：やはり子ども主体だから、子どもがどのスポーツやりたいかを把握できないと受け入れてくれと言われても受け入れられない。

谷課長：受け入れられないということがわかることも大事であると思っています。現状だと地域の中ではやっていけないものがある、それをどうするかというのはまた別途検討する課題になるかと思います。

平塚部長：ご意見に入っている部分もありますが、改めてご質問等はありませんでしょうか。それでは、皆様それぞれのお立場からご意見を賜ればと思います。資料 11 ページの将来像、まずこの辺が皆様のご意見の中で方向性として固めていくべき大きな柱になってくると思いますので、まずはこの 10・11 ページの図を中心にご意見を賜ればと思います。10 ページと 11 ページ、それぞれ 3 色で面積も変わっているのですけれども、これはイメージですので、必ずしもこの面積のパーセンテージがこうだというものではありません。現状を踏まえた議論ということですので、学校教育の立場で何かご意見ございますでしょうか。

参加者：私はこの図自体に結構違和感を覚えていて、これを見ると学校の部活動を縮小していくというふうに私は感じたのですが、その辺はいかがでしょうか。部活動を消すというお話もありましたが、そういう捉え方でよろしいですか。

鴨狩統括：そういう認識です。結果的に、現在はたくさんの要望があって、例えば一番多いところで 14 部活抱えていながら、顧問の 2 人体制をとって、そして指導の経験がない先生が入り、土日審判があったり試合だったりとということで、何とか学校では無理矢理つないでできているところがある。

参加者：それは全部ではないですよ。それは極端な例で、そうではない学校もあるので、あまりそれを全面に出していくのはどうなのかなという気がします。

鴨狩統括：全体を俯瞰してみた時に、実際に先生たちが部活動で取られている時間は相当あり、そこではほぼ無給の状況です。いろいろな学校にお伺いする中で、学校の部活動への要望・要求というのは過剰になっているところもあります。ですが、国が今こういった部活動の地域移行を進めていく中で、地域や学校の部活動を分け隔てなく、「どっちが持ちなさいよ」ということではなく、子どもたちのニーズに応じて地域にもたくさんの活動の機会があることを知ってもらって、子どもたちがより活動できる場を増やしていく。結果的に学校の中で、例えば最終的には部活動を廃止していかなければいけないことやスリム化はやはり必要になってくるとは思っています。私も管理職でしたが、やはり校長先生と「この部活は誰にもってもらおうか」となることがあった。お願いしても「ちょっと私は…」となった時に、それでもお願い

するということがある。そういった時に地域に同じようなスポーツ団体等があれば、そういったところでもシェアできるものではないかと思っています。このまま続けていくと、学校もおそらく破綻していくと考えていますし、今国が部活動の地域移行を進めている中で、今何ができるのかを考えながら進めていく必要があるのではないかと。完全に部活動を廃止するというのは無理だと思います。これだけの子ども的人数がいて、これまでの伝統などもあると思いますので。だけど、今この時代の流れの中で、お互い協力しながら子どもたちの活動の充実というところで、八王子はできないかというところがあります。

参加者: 先ほどの内容を第1回目の時に私も感じた。実際、学校の部活動はなかなかなくならないし、「中学校はやっぱり部活動だよ」というイメージは保護者も子どもも強く持っている。認識を随分変えていかなければいけないのだということに改めて強く感じました。小さな話ですが、本校では9割の生徒が部活動に入っています。6割が運動部、4割が文化部です。しかし、部活動に入っていない生徒もいて、柔道や水泳、それから硬式テニスなど。もちろん、シニアリーグの野球やサッカーのクラブチームに入ったりして、自分の活動をしっかりとやっている子どももいます。お金がかかるし、保護者の送り迎えが大変だし、その度に教員がやっている引率を保護者の方が大会の度になさっています。お気づきでない保護者の方もたくさんいらっしゃると思いますが、そうしたことを学校が全て担っているという大変さはやはりあると思います。それでいくと、これから将来像を考えてみた時に9割が入っている子どもの5割くらいが、学校の部活動で教員の勤務時間の中で自分のやりたいことを楽しくやる。一方で、土日も含めてもっと本気で極めたい子どもたちが地域のクラブに入ったり、大人と一緒に生涯にわたってスポーツや文化と楽しんでいくのだろうというイメージをこの図からは見るところです。その中で、どう部活動をスリム化していくかという、いきなり廃止することはできませんし。ただ、現状、本校では野球とサッカーはもう単体でチームは作れなくなっていて、他校と結びついて何とか試合に出るというような状況になっています。そうなっていったらいずれは拠点校部活動や広域部活動にして整理をしていかなければならないところだと思っています。その中で学校の教員が担ってきたところ一番で移行しにくいと思うのは大会の運営です。私が持っている演劇は、いつも12月・1月に都大会があるのですが、大会のために8日間先生が少なくとも10人くらいは張り付いて大会運営にあたります。これをやらないで、どなたか例えば劇団の方とかそういう専門の方が大会を開いてくれて、学校は出るだけだったら、自分の学校の指導と引率だけだったらどんなに幸せだろうって教員の皆さん言っています。ですから、その部活動の大会とか、仕組み作りのために教員がたくさん力を使ってきているところを移行したり、地域の方に担ってもらえたりするところ

は、一番有難いんだけど、一番難しいところだろうと思っています。学校で活動することは多分できると思うのですが、外とつながったり、大会運営をしたり、そこが移行できるとずいぶん違うのだらうなと思ってこの図を見ていました。

参加者：私は11ページの「～学校と地域全体で子どもの活動機会を保証～」のところは素晴らしいと思います。その実現のためにこの会議があると思っています。学校体育は生涯体育とか生涯スポーツに向けて、小学校でいうと色々なものの基礎をやる。中学校では2・3年生で高校に向けて選択する、自分がやりたいものを選んでいくという学校体育の趣旨があるのですが、そういうところに向かってやっていく。それから、学校体育の部活はチャンピオンシップだけではもちろんなくて、人格形成とかすごく大事なところもあるんですけども、生涯スポーツに向けてはやはり地域の方に助けていただかないとできないところがあるのかなと。今の自分たちのところで結果を残すという部活動だけではないと思うんですね。将来にわたってずっと続けていきたいと思うような素地を作るのが、体育の、それから学校の部活の大事なところかなと思っています。ですので、この「学校と地域全体で子どもの活動機会を保証」というのはすごくいいと思っています。それから、前にもお話ししましたが、私は青梅市の総合型地域スポーツクラブ設立の準備委員会の副会長だったのですが、やはり生涯学習に向けてやっていくために、いろんなことを地域がみんなでやっていかなきゃいけない。現状は山川先生ところでも「できている」とおっしゃっていますけども、これからに向けてしたら移行していかないとできないというのもあって、総合型地域スポーツクラブも活用できたらいいなと思います。今回の部活の地域移行も将来を見据えて、本当にどうにもならなくなってからでは間に合わないの、今からやっていくということが大切なのかなと思います。最後に、私は小体連のサッカー専門部長を9年やっていたのですが、小学校はTリーグとかいろいろありますが、中学校の部活は中体連に入るかクラブチームに入るかっていうところが迫られていました。中学校はどっちかで、うちの長男は選抜で落とされて、中体連でやって都大会までは行けなかった。次男は最初からクラブチームでやって、立川に行って関東大会まで出たりしていました。当時の中体連は新人戦と本大会ぐらいしかなくて、クラブの方はもうリーグ戦が年間通じてあって、試合の機会がすごく多いですが、お金の負担はすごく大きいです。その辺がうまく地域移行しながら部活とうまくやっていきながら、地域のクラブの方もいっぱい人が入ってくれば、今まで5000円かかったものが多くなったら3000円のできる等、少しハードルが下がっていくと入りやすくなってくるのかなと思っています。また、先ほどのアンケートの件ですけど、ニーズがまだわかってなくても、どれぐらい入れるのかってわかると、皆さんの方も振り返ってみたら、このくらいはまだ余裕あるのかな、可能性があるのかなが分

かっただけだと思うし、10月に結果が出た時に、「こういう状況だったけど、なかなかうまくいかないな」というのがすぐ議論できて、あまり先送りできない問題だと思うので、できたら現状を調べていただけたらいいのではないかなと思いました。

参加者：立場上、各種目の競技部長と接する場面があって、生徒も確かに減ってきているし、顧問もなかなか手がいない中で、競技部長を中心にとっても一生懸命、八王子市の部活動について子どものために取り組んでいる。なぜ私が先ほどお話ししたかという、そのように頑張っている教員たちの気持ちをうまく持っていかないと、この図をバンと見せられたら、「なんだ、部活もどんどんこれから削られていくんだな」って、そこら辺の説明は、教員のモチベーションもありますので、うまく持っていく必要があるかなと思って先ほど発言した次第です。

鴨狩統括：議題にはありませんが、国の方でも兼職兼業というのは出ていて、部活動をやりたい先生もたくさんいらっしゃるということで兼職兼業はできてくるのかなと思います。ただ一方で、先生方の本来の勤務時間とその兼職兼業の勤務時間、40時間とか45時間になっていて、それは守らないと兼職兼業ができないと法ではなっていますので、そういったところでの働き方改革はやはり見直していかなければいけない。これは次の議論になってくるとは思いますが、本当にやりたい先生方が指導できる体制をつくるのは必要になってくるかと思っています。

参加者：今日を迎えるにあたりまして、中P連の中でも皆さんの考えなどを聞いてきたんですけども、まず、「部活動の地域移行」という言葉だけが保護者の中では先行していて、「どういうことなのか」「なくなってしまうではないか」という不安が割と出ています。兄弟に小学生がいらっしゃる方などは、「下の子が中学校入る時にもう部活動がなくなってしまうのではないか」と言うくらい、差し迫ったものと捉えている方もいました。私も実際どんどん変わっていくのかなと思ってはいたんですけど、今日説明を伺いまして、「そういうことではないのだ」ということも分かりましたし、学校の部活がなくなるわけではないというのは分かったので、もう少し言葉だけが先行しない、丁寧な説明を保護者にもしていただければ、保護者の理解はもう少し進むのかなと思っています。あと、小学校のお母さんが「部活動が無くなっちゃう」と心配するのは、やはり中学校に入ったら部活動をやってほしいと思っている人が大多数でして、中学生が平日の昼間から何もしないでフラフラする時間が増えてしまうのではないかと、体力を持て余すのではないかと、サッカーや野球などのクラブチームでやれる子はいいですけど、そういう子の方が少ない中で、そのまま学校にいて、学校の中で友達と活動できる部活動というのは、親としてはすごく有難いです。今後どのくらい縮小していくのかわからないですが、自分が通っている学校で、いつも一緒にいる友達と活動

できる時間というのは、そのときしかできない経験でもあるので、友達がみんな一緒に同じ地域の団体に入るのも難しいと思うので、友達と過ごす時間やそこでの思い出、感動など、そのときしかできないものもあると思う。また、広域部活動ですが、本当に近い学校ならばいいんだけど、どのくらい移動があるのか、どこまで行かなければいけないのかとか、そういった不安もやはり現時点でも出ています。ただ、学校の先生が一生懸命部活動をやっていただいているという事は、保護者も十分理解しておりまして、ありがたいと思っています。

平塚部長：一旦、ここまでの明確なところは「結果的に将来に向かって部活動の総量っていうものが縮小していく。だけどゼロにはならない」というのが今の資料のところだと思います。マクロ的な捉えとしてはそのような形かなというところで、また今後ミクロな各論という部分に入ると、それぞれいろんな課題というのが出てくると思うので、課題があるから総論が変わるということではなくて、ある程度総論という部分についての方向性としては共有をしておいて、その中で各論の課題をどう解決していくかというような方向性かなと思っています。もう一つ、どうしても部活動が縮小する、なくなってしまうのではないのか、という批判もあるので、結果的に縮小するという事で、縮小させるのが目的じゃないというところも共有しておいた方が議論がスムーズかと思っています。例えば、生涯学習の緑の部分を増やしていくというのは、これは環境を整えるという意味で目的にはなってくると思いますが、その結果オレンジの部分の縮小しているところがネガティブに捉えられてしまうこともあります。結論として、部活動の領域は総量としては縮小している。そのためにどういう手立てを、また、どういうことを目標として掲げていかなきゃいけないのか。まず、10・11 ページについてはそのようなところでご理解いただいて、共有していただければと思います。

参加者：縮小していくとか、先ほどの削っていくという言葉について。縮小していくのではなくて、縮小せざるを得ないところは縮小してくださいなど、一生懸命にやってくさっている先生方に対して配慮が必要かと思っています。

平塚部長：検討の場においてははっきりした整理が必要かと思っています。これを市民や保護者に伝える際には、今おっしゃったようにデリケートな団体もあるので、そこは配慮が必要かなというふうに思います。この場の中では、一旦は「部活は縮小する。現時点ではなくすということは想定してない。」というところが大事かなと思います。

鴨狩統括：例えば、縮小とか、無くしていかななくても存続するのであれば、先生だけがそれを担うという考えではなくて、例えば保護者の方が夕方に来ていただいて、指導をされてもいいのかなっていうように、そうすれば維持はできるのだろーだと思っています。そういったところも含めて、保護者の方とか地域の方とか、あるいは今は奈良県生駒市では地域総合型スポーツクラブか

ら指導者を派遣してもらっているところもあります。あらゆる選択肢があるだろうと思います。例えば、部活に入っている地域クラブに入っている子もいますし、学校で卓球やっていますが、外では野球をやっていたり陸上をやっていたりする子もいるだろうし、多様な場面があってもいいのかなと思います。

参加者：だから私はさっきの学校と地域全体で子どもの活動機会を保障するってところをもっと前面に出してもらえたらなとお伝えしました。

鶴田課長：学校教育から提供していただいた令和4年度の部活動の集計を見ますと、例えば現在市立中学校の合唱部は4つです。そうすると、合唱をやりたいなと思ったけども、自分が入学した学校に合唱部がない。だから選択肢にない以上は仕方がないから他の活動を探すとといった場面もあるのかなというふうに思います。そうした時に地域には子どもの合唱の団体があって、月謝とかがあったとしても、「ここに通うことによって、元々やりたかったことができますよ」というような場面も想定される。何でもかんでも、学校部活動のリストラありきではなくて、縮小せざるを得ない状況で選択肢が狭まってしまっている。その時に「こういう活動が実はあるよ」という情報を得られる状態にしておくのが大事かなと思っています。それが学校と地域全体で子どもの活動機会を保障していくイメージです。もちろん現状のリストラありきという形ではなくて、少子化の中でせざるを得ない状況になった時に、子どもが「選択肢がなくなった」と思わないように、八王子にはここまでいけば自分でやりたいことがあるという環境を作っていきたいというようなイメージで事務局としては図を描きました。選んだ言葉が複数不適當であったところもありますので、市民に理解を得るために発信していくときには今のご助言等を踏まえたいうえで見直していかなければいけないと考えております。

参加者：一つよろしいでしょうか。これも言葉尻の問題かもしれないですが、今11ページに出ている将来像の図のところでは生涯学習と学校教育をわけていますが、これ今後は一体化するイメージですよね。ここが分かれているといつまでも分かれている議論になってしまうと思います。要するに八王子市としては、地域の活動も含めて学校の活動も含めて、学校教育として見ていくのか、生涯学習として見といていくのか、みたいなどころはある意味一本化を少しした方がこの議論っていうのは、それぞれの立場の考えはあると思いますけれど、もう少し見えやすくなるのかなと思いました。というのも、上の方に「学校は部活動と地域活動を同列のものとする」と書いてあるのであれば、ある意味一緒に同列にした方が、特に市民の方々に見せるという意味においては見せやすいのかなと感じました。

平塚部長：ありがとうございます。イメージ的に縦の白い線がない方がすっきりするということですか。

参加者：そういうことです。

参加者：中学生は3年生になると高校入試のためにいろいろ自分のアピールポイント等を書いたりするんですけども、その時に部活動のことを書いたりしますが、自分が個人的に習っていたこととかで頑張った事っていうのは、今の時点ではそれを自分のセールスポイントに書く認識はないと思うんですね。ただ、これが一体化になると、生涯学習の方の教室で学んだことなどもセールスポイントとして都立高校入試の際などに掲げることは可能になるのでしょうか。

鴨狩統括：今でも書けます。入試に影響はほぼありません。

参加者：セールスポイントとして学校外のことを書いていいということがわからなかったのも、それが書けるというのがわかれば大丈夫です。

鴨狩統括：今もそうになっていますし、外でいろいろ活動していることを書いている子もいます。証明するものと言えば、そういった外の活動で賞状をもらったとか、得た知識を出したりです。

参加者：賞だけではなくて、何かやり遂げたような内容もかけるということでしょうか。

鴨狩統括：その通りです。

鶴田課長：実は今のお話は、この部活の地域移行がちょうど1年ぐらい前から大きくなった時に、保護者や生徒の持っているイメージとして、内申という言葉が出て、部活をやらないと将来の進路などにも影響するというイメージは、自分の家族の話聞いても根強いものなのかなと思います。おそらくこれから学校で行う部活動も地域の活動も、本人が中学校生活中に、「私はこれだけ自分のやりたいことに一生懸命取り組みました」というように、同列で、それは何ら進路を左右するものではないということ、地域活動が学校部活動と比較して進路的にマイナスになるものではないということ、これらの周知を図っていくことはすごく重要なことであると思っております。

平塚部長：現時点では保護者の認識やギャップもあると思いますが、この取り組みはこの夏に文部科学大臣も取り組みを進めていくという意思表示をしっかりとっていた案件です。これは全国でやっている取り組みになっていて、八王子だけで方針を決めるものでもないの、社会の中で認知される過程で、保護者の価値観や認識が徐々に変わってくるということも十分理解できると思います。

参加者：先ほど地域活動と部活動を同一に扱うというお話の中で、私もこの垣根の部分の色分けを取り払うイメージは考えてなくて、改めて待つと思ったんですけど。学校の部活動の中で、これから先、なかなか外まで出ていくことが難しくなった場合に、校内だけで留まるような、教員の勤務時間の中だけで整えられる分野だけの場合もあると思います。そうした場合に、大会の運営などはこれまで教員のノウハウに頼ってきた部分もありますし、引率は保護者の方ができるようになります。クラブに参加するようになれば、当然

参加費もかかります。ですから、「学校の中だけだったらタダで先生にやってもらえるよね」と思われる方でも、実際に保護者がたくさん時間的な負担、「学校に教えに来てもいいですよ」と先ほど鴨狩統括がおっしゃったように、ずいぶん考え方を変えなければいけない部分がある。費用の負担などの平準化などは、先々考えられていくのでしょうか。今、部活動の大会参加費やその他の部分で保護者に支援するような施策があると思いますが、それが全部なくなって、外のクラブに入るとなると、今でも結構負担をしているとなると、「やっぱり学校の部活動があったらありがたいのに」というような声も出てくるかと思いますが。

鶴田課長：先行して実施している自治体を調べますと、部活動の地域移行に関して非常に多くのモデルケースが出てくるのですが、それは検証事業をやるための補助金を受けた形です。モデルケースや検証事業というのは、いつか必ず終わりが来ます。そこに関しては、今は国の補助があるから無償でできているところも、必ず最後は指導を受けるための対価が必要になります。生涯学習の観点からすると、自分たちで施設を予約して、仲間でお金を出し合って、自分たちのやりたいことをやるのは一般的なことですが、やはり部活動のイメージというのは先生がいわば泣いてくれていた代わりに、指導に対する対価は発生しなかった。ただ、地域であれ部活動であれ、ユニフォームを買ったり、シューズを買ったりといった部分で部活動の費用負担はゼロではないのが現状であろうかと思っています。この議論、最終的には方向性を見定めながら、保護者の方や子どもたちに説明していくときに、指導を受けるためにはある程度の対価は必要であるという部分に関しては説明していかなければいけないのではないかと考えています。現時点で国や都道府県の補助として会費を肩代わりするような制度はないというのは現状です。

谷課長：先ほどの座長が総論として「部活動というものが将来的に縮小していく」というところですが、今少子化と学校の先生の働き方改革という流れから、そうならざるを得ないのであろうかと思っています。そういった世の中において各論部分として、今先生がおっしゃられたものは非常に大きな課題として残ると思います。それはこれから今後議論をしていかなければいけないことですけれども、だから（費用負担があるから）といって学校の部活に戻ることは、おそらくこれから先はできないであろうという認識のもとに国がこのような活動をしていくのだらうかと思っていますので、そういったところをどのようにしていくのか議論が必要だと思っています。

参加者：10 ページの内容について。子どもを中心に、保護者、教員、この辺りの気持ちをうまく持ってかないと、なかなかうまくいかないと思います。私が引かかるのは 10 ページの緑の部分の 3 つ目、「中学校入学を機に、子どもが地域の活動から離れてしまうこともある」は、私もそう思います。そして、オレンジのところの一番下に「種目により部活動の活動時間が長く、子ど

もたちが地域活動や地域行事への参加から遠ざかっていることも考えられる」と。だから、部活を縮小して地域に持ってくるのかと、意図的に持っているような感じを少し受けた。私も自分を振り返ってみると、小学校の時というのは地域の行事がワイワイとただ楽しいだけ。でも中学校になると、例えば運動系でも文化系でも向上心を持って取り組む。大会に勝つために、コンクールに成績を残すために、練習も頑張る。これは顧問がやらせているというよりも、子どもの発達段階でそういうところに価値を見いだして、どうしても部活動の練習があるから地域行事には時間がない。そういう凶だと思うので、なんとなく恣意的に持っていくように私は捉えたので、全部直してくれという意味ではないんですけど、今後こういうものを作る上でちょっと注意した方がいいかなとは感じました。

平塚部長：学校側のご意見を賜りましたが、スポーツ・レクリエーション、文化という視点で、地域側の立場でのご意見を賜ればと思いますがいかがでしょうか。

参加者：根本的に部活動と地域活動を連携して体験活動を支える将来像ということで私は理解しています。ですから、学校の部活動は縮小するべきではないと。現に、私の子どもが学校に行っているとき、同じ小学校の子たちで同じ中学に行けると思ったけど、そこには剣道部がないから違う学校を選んで入ってしまった。また、その学校行ったらラグビー部があると思ったら、今年からありませんということで、残念がっていた生徒もいたということです。そういう状況を打破するためにも、やはり地域の力ってというのが必要で、お手伝い・サポートできればなという考え方をしております。ですから、先ほど大学コンソーシアムの方がおっしゃったように、生涯学習と学校教育ということではなくて、学校教育の中の部活動をサポートする役割が地域の活動なのかなと思ってます。あとは、ニーズのお話もありましてありましたけれども、私たちは誰ができるかということをおある程度出していった方がいいのではないかなと思っています。要するに、スポーツでいえばセレクションがあったり、文化であれば、御茶もそうですし、三味線とかお琴とか初心者でも可能なところがあります。そういうことも出していきながら関連団体の方には調査していく予定ではあります。そこから議論して新しいかたちの部活動を構築していかなければいけない時期なのかなと思います。というのも、根本的には少子高齢化で、団体も結構年配の方が頑張ってる。もう体力的に難しいとなっている人もいます。若い人との交流と同時に、その若い人が本当に好きになってやってくれることを望んで、お手伝いできればと思っています。

参加者：前回お話をさせていただいた総合型地域スポーツクラブ、私どもスポーツ推進委員というのは、直接、総合型地域スポーツクラブを主管としているというとは実は違うのですが、私どもスポーツ推進委員は42名おります。先ほど6つの地域ありましたが、各クラブや旧体力づくりから推薦された者

が推進委員として挙がっておりますので、そういった意味では一番総合型の立場に近いかなというところから発言させていただきたいと思います。現状の学校部活動におけるかなり、この切迫していく、今後このまま続けていくことがどうなんだろうという課題から見ていきますと、11ページの将来像ですが、私は比較的バランスが取れていてよく理解できるように作られているのではないかと思います。先ほどから学校部活動が縮小化されていって、地域の活動が膨らんでいくっていうように議論されているところもありますけど、どちらかというところ今まで地域の活動というのは実はかなり問題がありまして、あまり広がっていないというような現状だったと思います。そういった意味では、部活との連携を持たせることによって、地域側が膨らんでいく、今後拡大されていくっていうところから考えていきますと、この将来像というのはかなりまとまった図に私としては受け止められるということでございます。特にそれに絡んでいきますのは、今もお話ししましたとおり、前回のときにも発言させていただきましたが、現状の総合型地域スポーツクラブというのは、若い方が非常に少なくて、かつての体力づくりからずっと継続されている人たちはかなり高齢化しております。かなりそういった問題を抱えているのが現状でございますので、それから関連していきますと14ページにあります活動状況の調査というのは非常に重要なのではないかなというふうにも考えられます。今後、地域が部活と連携していくためには、地域自体もしっかりと今の状況から拡大していくべき体制をとらなければいけないと思います。そのためにはまず現状をしっかりと把握しまして、それに伴う課題をしっかりと把握しまして、そこをどのように克服していくのかという体制を作らないと。基礎が出来上がっていないところに、部活からの連携性という上物を乗せたところで、建物としては基礎が軟弱のままであったのが、どこかでそれが崩壊するという可能性もありますので、それを踏まえて考えますと、この調査というのは非常に重要なかなと思いますので、私はぜひ進めていただけたらと思います。

平塚部長：ありがとうございます。レクリエーションの立場からいかがでしょうか。

参加者：今14ページの話が出ましたが、私たちは3年前から八王子市内6校の部活動を手伝っております。日本レクリエーション協会が上部団体としてありますが、3年前にニュースポーツを広げようという話題になった時に東京都が最初に手を挙げ、そして大阪が手を挙げた。東京で4つの団体のレクリエーション協会が動きました。通常は部活動というのは健常者の子どもたちを扱っていますが、私たちは特別学級を主体にしております。私が3年間6校やった中で一番の問題点は、学校側は特別学級には手を出さず、特別学級ではない子どもたちの部活動を盛んに行っていた。そこで私たちはニュースポーツを教えようということで、公認資格を持った人たちを

派遣してやっていたが少しずつ変わってきた。初年度は日本レクリエーション協会がお金を負担して、参加者を募りました。2年目は各学校に任せました。ところが、レクリエーションはボランティアが多く、指導者の半分は無償です。そうすると学校部活動の午後4時から5時までの部活動を指導するためには、会社を休んで指導に当たらないといけない。6校のうち2校は無報酬、あとの4校は若干の交通費程度をいただいているようです。当初2、3人しかいなかった子どもたちが、今はほとんどが10人とか15人で結成してレクリエーション部を作った学校があります。それを普通の部活の子どもたちが見て、こんなこともあるのかということで人気があります。一つは指導者の私たちが地域から学校の先生のお手伝いしてやるという事も必要ではないかと考えます。八王子のある中学校で突然、個人的に「来てください」と言われて行きました。3ヶ月くらい行ったんですけど、ある時、不登校だった子どもたちが最初1人だったのが、「学校が楽しい」ということで、3人、5人、10人と増えてきた。通常やってる部活に出てる子どもたちが見て、「こんなスポーツあるんですか？」ということを知るので、場合によってニューススポーツも考えた方がいいのかなと思います。絶対的に学校の先生方だけですと、一生懸命やってくさっていますけど、子どもたちにとっては何か変わったこともほしいという考えもあるので、部活の中にそういった新しい空気を少し入れるのも必要じゃないかというふうに思います。不登校だった子どもも言ってくるっていうのはありがたいということです。今でも続いていますけども、子どもたちが突然変わって積極的になってきたということで八王子ではやっております。いろんなところから声がかかりますけども、ボランティアのところは全部私が行きます。ボランティアじゃなくなったところは、それぞれの指導者に任せてやっていますけど、みんな止めないで毎年変わったことやってるということがありますので、結論的にはその部活もマンネリ化しないでやっていくという、顧問の先生方の中に地域の人が絶対入っていくということで、ムードを変えるのが必要かなと私はそう思っております。

平塚部長：ありがとうございました。地域の方の意見のところの中では、先ほど将来像の中では地域移行のイメージは共通した部分でしたが、現状は地域連携というところも少し丁寧に共有することが必要かなと思います。

参加者：毎回私達スポーツ協会は市との連携ということ言ってますし、先ほどどなたか話してましたけど、地域スポーツもあまり発展してないと聞いて、私はびっくりしました。私は37団体ありまして、会員が2万2千人います。今年の9月1日から来年の3月31日まで市民スポーツ大会というのを主催しています。どちらかの先生が「生徒が大会に出る場所がない」ということをおっしゃいましたけど、競技ごとに主幹団体がやっていますので、市民だったら誰でも大会に出れるわけです。大会が中学だけの大会じゃなくて、八王子の中にもたくさん大会があるということを知らない方がいらっしゃるのでは。か

なり門戸を開いて、八王子市民のスポーツのためには貢献してるつもりなんですけどね。あまり知られてないということを知って、逆らうわけではないんですけど、ただ何が言いたいかという、やっぱり費用の関係がありまして。そこが一番気になってるんです。学校だとある程度安くできますけど、スポーツ協会の各団体に入ると会費とか大会出場費とか、色んな問題が出てきちゃうので、私は拒んでいるわけではないんですけど、入ってきた時にPTAの方たちが納得するのか、と。今までかなり安くできていたのが、「地域のスポーツに入ったらこんなにお金がかかるの」ってなると困るなということ、さっき話しました。調査はこちらの方もしてくださいという意味です。私たちは絶対拒んでいるわけじゃなくて、いつでも来て結構です。ただ、来てから問題が起きるよりもある程度そこも知っていただかないと困るなということ、を言いたかっただけです。

参加者：将来的に選べる子どもたちの活動の場と選択を広げるということだったんですけども、学校でやれば無料、生涯学習で地域の活動に入ると月会費がかかる。学校でももちろんユニフォーム代やスパイクだなんだとかで、今までもかかっているんですけど、それが月々かかってくることによって、保護者が「あなたそれじゃなくてもいいんじゃない」っていうふうに制するような場面は容易に想像ができることであって、そういうことがなく、子どもたちが自分がやりたいものを自由に本当に選べるシステムを作らないと、学校の部活動と同等のポジションというのがなかなか、本当にやりたい子たちを除いて、ちょっとやってみたいなという興味から入るにはなかなか難しいのかなと思いました。また、この将来的なこの図から言って、学校というのはだいたい年度始めに部活動紹介とか各部活の先輩がこういう部活がこの学校にはあるという紹介をする中に、地域の活動も同じように紹介があって、「広域部活動っていうのもあるよ」、「地域の方だったら中学校を卒業してもそのまま続けられるよ」というふうにきちんと説明していかないと、子どもが自由に活動選択っていう本当の意味で考えると、なかなか厳しいのかなというふうに思いました。以上です。

平塚部長：今将来像を中心に意見いただいたところがありますけれども、情報をどう出すかということも、非常に大きなポイントになると思いますので、今日お示しした資料の中でも今後の活動状況調査とかアンケートのお話もありましたけれども、その辺で何かご意見があればおっしゃっていただければと思います。

高橋課長：私もスポーツ団体の運営にかかわっているのもその立場を兼ねて発言させていただきます。この調査については、各団体、各連盟、非常に難しいところがあります。一つの競技についていくつもの支部があったりチームがあったりします。団体が使っている場所も、学校であったり市民センターの体育館であったり、様々などところがあります。それを調査して、一括で月会

費がいくらかかりますというものを出すことで、全部開示をしてしまうと、こちらはなぜ高くてこちらは安いんだというところも中には出てくると思います。いわゆるリレーの競技であったりとか、その競技力向上に向けた内容なんですけども、それぞれの活動だったり、内容によって違うところがありますので、そこは配慮しなくちゃいけないのかなと思います。調査はさせていただくけども、開示の時には十分な注意も必要になってくるかと思しますので、そこはしっかりと各団体、スポーツ協会も先ほどのとおり 37 ありますし、文化連盟の方もかなりの幅広い範囲で会員がいらっしゃる団体があると思いますので、そこは十分に説明をさせていただきながら、進めていく必要があるのかなと私の方も思ったところです。

参加者：一つの団体の中にいくつものクラブチームがある。各々会費も違うし、そうすると比較になっちゃうと、中がやりにくいです。ここはいくらでここが安いじゃないかとか、そういう開示をされちゃうと必ずわかるもので、37 団体でも 37 団体目のスポーツ少年団ですから。これは競技として別としても、例えばサッカーとか野球とか空手とか少林寺とかいろいろと連盟はありますけど、連盟だけがやってるのは少ないです。連盟＝団体ではなく、だいたい連盟の中にはいくつもの団体が加盟してますから、加盟してる中でいろんなことが出てきちゃうと、うちの方としてはやりにくい。ですから、協力はします。初心者クラスを設けて、なるべく興味志向ではなくて楽しむようなふうに私の方は皆さんにお願いします。でも今言っていないものところで、各連盟の人たちがやりにくくなるような調査はしてもらいたくない。

鶴田課長：団体を運営して会員の方を募っていくという中で比較されることの抵抗感があるということはおわかりました。ただいまのご発言の中で、会長の方からそういった初心者クラスなども念頭にというのはすごくありがたいご発言です。各団体、今の運営をしているだけでも、会計や練習会場の確保などいろいろ大変だと思うんですけど、将来的にこれから入ってくる子どもにも門戸を広げるための初心者クラスなどを考えていただけるというのはすごくありがたいと思いました。

鴨狩統括：地域の団体様にも調査をするというところで、我々もすでに部活動の調査はやっていきますし、部活動の現状というのは把握しています。先ほども議論にありましたけれども、学校として毎月部活動の計画を学校のホームページにすべてあげていく形になっています。保護者の方たちなどにもそのあたりは明確に示すようにガイドラインにも載っています。一方でそれらがきちんと浸透していない部分もあり、計画にはない長時間の活動もあって、スポーツ団体の方ではきちんと時間を区切ってやっていらっしゃるという風通しのよさ、情報共有が必要になってくると思います。情報についてもお伝えをさせていただきながら、よりよい活動がどういうものなのか情報提供していただきたいと思っています。

参加者：アンケートを展開する範囲なのですが、文化部の子どもたちが参加できるような地域団体となりますと、文化連盟の活動もそうでしょうし、バックアップされていないような市民劇団とかワークショップであるとか合唱団であるとか、また吹奏楽などの音楽に係るような部分でどこまで広がるのかといったときに、文化部の中で一番大所帯なのが吹奏楽。そして合唱、演劇。あとは軽音楽みたいなものやダンスなどもあるかと思しますので、展開範囲を広げていただけますと、選択肢はそれから広がっていくのではないかと思いますので、よろしくお願いします。

参加者：11 ページのところに「さまざまな活動の実施主体」というところで、今日別件で町会の方々とお話しをしてきたんですけど、例えば八王子でやっているお祭りの担い手というものも地域活動の一つなわけですよ。そうすると、今こちらにご参加されているような団体以外にも結構幅広くあるなっているのは、まさに町会の中でもお祭りを担うとか、お囃子をやる人とか、そういうのも範囲に入ってくるのかなというところ。もう一点、我々の活動団体の中に市民活動協議会もいるんですけど、そういったかたも、中学生にどこまで広げるかという問題も当然あるかとは思いますが、そういうのを考えていくとかなり幅広くあるな、と。さらに私が所属している学園都市文化ふれあい財団もこういうところに資するような事業をやっていると思えます。

谷課長：多分 100%全てをいきなり網羅することは不可能だと思いますので、まずはわかるところから段階的に、先ほどスポーツ協会のほうでも 37 の連盟がある中に、構成団体が 581 っていう数字があります。その全てを確認するだけでもかなりの作業になってきますし、レクリエーション協会のほうでも同じような状況があります。最初からすべては難しいので徐々に広げていくようになるかと思えます。学校部活動もいきなりなくなるわけではないので、いろいろ組み合わせながらやっていければと思います。

平塚部長：今はここで学校教育と生涯学習、市の組織ではそういうところが中心になってますけれども、話の中で市民活動推進部ということがあって、まさしく文化芸術、または町会自治会、そういうところも担っているところがありますので、その部署とも連携とっていくということは必須だと思います。前段のところ、調査の部分については調査することと情報を開示するということが、そこはちょっと切り分けて考えることは必要であると思えます。まず調査、そしてその調査をどのように開示していくか、慎重にしていくことが必要かなというところが、今日の皆様のご意見の中で出てきました。座長の立場で、今後の議論の参考になればと思いますが、今の既存の文化、スポーツ、レクリエーションのところ、中学生がすでに入っているというのは一つの今後の参考の事例になると思うんですけども、もし既存の今の活動の中で、中学生も一緒になっているような団体、クラブ等あればぜひ情

報として見ていただければ、今後の参考になるかと思しますので、次回または今もしお話できることがあればお伺いできればと思います。

参加者：先ほどの話の続きになりますが、理事会で競技的にはバレーボール連盟は中学生が欲しいというようなことを言ってました。また弓道連盟の会長に聞きましたら、八王子市の富士森体育館で一般開放をやってるんです。市民の方、その中に中学生を入れて、その中学生の方が一生懸命頑張っ、高校に行ったらいい成績が出たというような事例も出てますから、大きい小さいじゃなくて受け止め方でどういう風にでも子どもは育つと思うのでね。制度として市民体育館でも1週間通していろんな競技の一般開放を安い費用でやってるんです。1回300円とか、ほとんどボランティアでやってます。それは市のほうからも補助金をもらって指導にお金を払って。さっき言ったハードの部分じゃなくて、ソフトの部分だったらそういう口もあるわけです。私は空手を教えてるんですけど、やっぱり小さいうちは来るんですけど、中学になると進学でやめてっちゃう。最近は熱心で、小学校でも5、6年生になると中学進学のために空手をやめてします。大体中学生だと1年生ぐらいで、勉強になっちゃうんですね。3年だとよっぽどのことが無い限りほとんど来ないです。ですので、中学生にスポーツを教えるというのはすごく難しいと思います。一貫して高校までずっと行けるかどうかの丁度境目なんです。小学生のうちはお母さん・お父さんに怒られるからなんとか来るんですけど、中学になると自我が出てきて「やってられない。もっと面白い遊びがある。」となるわけです。「体痛めるのは嫌だから」という、私の感覚では昔の子どもと少し違って、頭がすごく進んでるけど、体はあまり使いたくないなというような傾向があるんです。それを何とか救うのはまた別の課題ですけど、皆さんが努力してスポーツを好きに、体を動かすような方向に持っていかなくちゃいけないなと思ってるので、一番きつい話じゃなくて、ニュースポーツは楽しいですから、塩澤さんの方でなるべくあんまりスポーツが好きじゃない子をクラブに入れてもらえると私は助かります。

参加者：受け入れています。そういう話が八王子だけでなく、八王子以外から話が伝わって、遠いところでと檜原村も行ってるんです。羽村市も行ってます。全ては出なくても何かの部活に入ろうという子どもたちのためにやってるので、それから離れていけばいけないのかなと思います。男女問わずにそういうことで、こっちも結局やめるわけにいかないし、今本当に広がって困ってます。

参加者：中学の部活動は入らないといけないという決まりがあるのでしょうか。

鴨狩統括：今だいたい加入率が86%ぐらいです。全員部活に入らなくてもいいです。この間北関東が某市の方が視察に来られたんですけど、その市は100%入らなければいけないという昭和40年とか30年ぐらい昔の考えがずっとあ

って、全員入らなくてもいいとうことに驚いていました。部活動指導員も一人もいない。全て先生がやる。そういうものなのだとということです。来てるって、なかなか部活動の地域移行に向けてもう一つハードルが高いということで、今八王子の見に来て、すごくびっくりされました。入らなくてもいいのは当たり前なのですが、そういうところも実際はあります。

参加者：親が内申のところに加点の対象になって評価されるからということとで部活動に入れているのでしょうか。内申に有利になるというのが働いているのでしょうか。

鴨狩統括：必ずしもそうではないと思います。よく内申点というのは私が生まれる前くらいの口伝のようなもので、何かすると「内申が悪くなる」と。内申というのは5 4 3 2 1の評価評定の部分、ABCとかそういった部分です。だから、性格だとか行動だとかで、それが下がるということは全く違います。でも、それがずっと残っているので、「部活に入らなければ内申が下がる」と、全く根拠のないことですが、そういうものが残っているので、その辺りは難しいですよね。いまだに評価の中に授業遅刻とかで減点されちゃってるのですが、それは授業の評価ではなく生活指導の問題なので教科に入るはずがないですが、そういうのはいまだに少しずつ残ってるところはあって、そういった誤解はきちっと払拭していかなきゃいけないんじゃないかなと思います。あとは高校受験の時にセレクションを受けるような高校もあります。スポーツ推薦で、実際に活動に参加をしたり、テストを受けたりとか、そういったところがあります。けれども、必ずしも部活に入っていないから受けられないというわけではありません。

参加者：私たちスポーツ団体からすると、純粹にスポーツやってもらいたいから、横目で何かの点数が良くなるからスポーツするというのは、私たちからすると外れてるなという感覚があった。

鴨狩統括：ほとんどそういう子はいないんじゃないかと思います。団体によってはスポーツ団体の方が高校につなげることができたりできる部分があるのではないかと思う。

平塚部長：本日まずポイントとなるのは八王子で考えている将来像の共有というところの中で、一定程度共有できたのかなというところと、今地域移行ということではなくて、現状の地域との連携とした部活っていうのも少し掘り下げていく方がいいのかなというような印象と、また、調査及び情報開示の部分についても。次回以降の論点というところから出てきたかなと思っています。概念だけではなくて、少し具体的な事例なんかも情報収集しながら、また次回に向けて事務局の方でも内部で検討できればと思っております。

志萱部長：私自身知らなかったことを皆様からお伺いできましたし、各団体様のほうも今日初めて知った現場の部分もあるかと思っています。子どもの活動機会を保障していくためには、やはり情報を共有することが大切であると改

めて感じたところです。各団体の皆様のご意見を聞きながら、実態の調査をさせていただきたい。もちろん、調査の仕方も気を付けなければいけないですし、集めた情報の開示についても気を付けてやっていかなければいけないですけれども、検討会の中ではしっかりとこういった情報は共有すべきと認識しまして、改めて皆様にご協力をお願いします。そして、保護者、子ども、学校、各団体、丁寧に説明していかなければいけないので、そういった点についてもご意見賜りながら進めていきたいと思っております。ありがとうございました。

今川部長：部活の地域移行で目指しているところが見えていないというところが、私たちの方にあるのかなと思っております。これらについては、この言葉が広がっていく中で、また、仕組みを作っていく中でさらに見えてくるのかなと思っております。地域には地域の課題が、地域活動の中では地域活動の課題が、学校には学校の課題があります。そういう中で、これからの子どもたちの活動の機会をどうやったら確保していけるのかというところに向かって、それぞれが連携しながら是非取り組んでいけたらという風に考えておりますので、是非ご協力のほどよろしく願いいたします。

平塚部長：お時間も超過しておりますので、言い足りない点等ございましたら事務局のほうへ電話またはメールをいただければと思っておりますがよろしいでしょうか。それでは、これをもちまして、第2回八王子市中学校部活動検討会議を閉会いたします。ありがとうございました。

事務局：第3回部活動検討会議の日程につきましては、皆様のご都合をお伺いの上、改めてご連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。以上です。